

《原著》

管理栄養士の仕事及び情報へのアクセスの現状と 人間関係との関連の検討

松下英二¹⁾

要旨

【目的】

多職種と連携し業務を行う管理栄養士において、人間関係の構築は重要である。しかし、管理栄養士養成学校入学時から人間関係に不安を持つ者が多数存在することや、就職時にはさらにその数が増加することが報告されている。また、就職してからも人間関係等を取り巻く環境が職務満足度に関連するとされる。しかし、人間関係とどのような要因が関連しているかは不明である。本研究では人間関係に焦点を当て、縦と横のつながりと仕事や情報へのアクセスが関連しているか調査し、当該分野の課題や問題点の抽出を目的とした。

【方法】

食品の画像素材を提供するサイトである「そぞい屋さん」を利用する管理栄養士を対象に Google Forms を用いた Web 調査を実施した。回答者の内、管理栄養士であった269名（60.7%）を解析対象とした。調査内容はアンケートによる利用者の年齢、つながり、仕事、情報へのアクセスを調査した。縦（上司・部下）のつながり及び横（同期・同僚）のつながりについて、それぞれない者とある者を比較検討した。

【結果】

縦のつながりがない者は38.7%、横のつながりがない者は42.0%であった。20歳代の縦のつながりがない者はある者と比較し、「資格を活かしていない」と回答した者（37.8% vs 9.1%, $P<0.001$ ）、「理想と現実に差がある」と回答した者（86.5% vs 59.1%, $P=0.004$ ）の割合が有意に高かった。30歳代の横のつながりがない者はある者と比較し、「常に情報を収集していない」と回答した者（26.0% vs 6.6%, $P=0.007$ ）、「最新情報を入手していない」と回答した者（40.0% vs 19.7%, $P=0.022$ ）の割合が有意に高かった。

【考察】

本研究により20歳代の管理栄養士において、縦のつながりがないことと「資格を活かしていない」「理想と現実に差を感じている」といった仕事への不満、30歳代において横のつながりがないことと「常に情報収集をしていない」「最新情報を入手していない」といった情報へのアクセスとの関連が示された。

キーワード：管理栄養士、人間関係、仕事、情報へのアクセス

1) 名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科

I. 序論

現在、管理栄養士の働く場所は病院や給食施設だけでなく、保育所やドラッグストア、一般企業など活躍するフィールドは身近なところまで広がっている。さらに、管理栄養士は医療チームの一員として診療に積極的に参加することが重要であり、2010年4月の診療報酬加算に栄養サポートチーム加算（NST加算）が新設された。現在、「栄養サポートチーム」のほか、「褥瘡対策チーム」「摂食・嚥下チーム」「呼吸ケアサポートチーム」など様々な医療チームが形成されている¹⁾。管理栄養士の需要が高まることで業務内容も増加しており、多職種と連携しチームとして働くためのコミュニケーション能力の涵養と人間関係構築が重要となってくる。

しかし、町田ら²⁾によると管理栄養士養成施設入学時から人間関係に不安を持つ者が37.7%存在し、卒業時には67.1%と有意な増加を示していることが報告されている。また、田中ら³⁾によると病院栄養士の職務満足度を高める要因として職場の「人間関係」が一番に挙げられ、上司や同僚に限らず他部門も含めた職場の人間関係構築に重点を置き、友好的で連携の取れる人間関係が職務満足度にも影響していることが報告されている。このように管理栄養士自身も人間関係の重要性を認識している一方で、それが不安要素となっていることが考えられる。

人間関係が仕事に与える影響として、経験年数が少ない若い看護師では職務継続の理由に「支えてくれる同僚」「支えてくれる先輩・上司」がいると挙げたものが3割を超え、他の年代よりも多いと三島ら⁴⁾によって報告されている。このことから、経験年数が少なく上司・部下といった縦のつながりが無い者や、同期・同僚といった横のつながりが無い者は、離職率が高まると考えられる。また、渡邊ら⁵⁾による看護職を対象とした研究では、1年目の看護師継続の理由として、職場の話しやすい雰囲気、本人や周囲の学習姿勢の高さなどが影響していると報告されており、人間関係や自分を成長させてくれる教育・学習環境が、若い年代において職場選択や勤務年数に影響を与えていると考えられ

る。さらに、唐澤ら⁶⁾によると、新人看護師には「看護技術」「専門知識」「業務遂行」に関する困難があると報告されている。さらに佐藤⁷⁾によると、日本企業における勤務先のストレス要因として上司や同僚との人間関係が上位に挙げられていることから、医療職だけでなく一般職でも人間関係が職場環境に影響を与えていることが分かる。

また、人間関係は情報の入手にも影響する。看護師の同僚間において「看護の提供に関する相談をする」「仕事で困ったことがあるときそれを得意とする同僚看護師に相談・助言を求めている」といったコミュニケーションが行われており⁸⁾、良好な人間関係構築は情報の入手に重要であるといえる。

このように、以前よりチームとして働いてきた看護師に注目した報告は多く存在するが、近年チーム医療の重要性が高まってきた管理栄養士における人間関係と仕事や情報へのアクセスなどがどのように関連しているかは報告が少なく不明の点も多い。しかし、同じ医療の現場で働く管理栄養士においても同様の困難や悩みがあると予測される。そのため、本研究では人間関係に焦点を当て、縦のつながりや横のつながりと仕事、情報へのアクセスといった要因がどのように関連しているか調査し、当該分野における課題抽出や問題提起を目的として研究を行った。

II. 対象と方法

1. 調査対象

われわれが運営している食品の画像素材を提供するサイトである「食品画像のそざい屋さん」を利用する者を対象に Google Forms を用いた Web 調査を2022年9月21日から10月18日までの4週間（27日間）実施した。総回答者数は433名であり、管理栄養士と回答した269名（60.7%）を解析対象とした。解析から除外した回答者は栄養士36名（8.1%）、管理栄養士・栄養士を目指す学生30名（6.8%）、デザイナー4名（0.9%）、その他医療従事者21名（4.7%）、その他83名（18.7%）であった。

2. 食品画像のそざい屋さんとは

「食品画像のそざい屋さん」とは誰でも無料で2,500枚以上の食品画像をダウンロードできる食品画像配布サイトである (<https://sozaiya-san.jp>)。調査期間中の利用者は約3,000名、ページ閲覧数は約40,000ページである。Web サイト上の専用の回答ページ及びダウンロード時のポップアップ表示の2か所にアンケートを設置して調査を行った。また、アンケート実施について Twitter にて告知を同時に行った。

3. アンケート調査内容

アンケート内容は年齢、職場のつながりに関する調査、仕事に関する調査、情報へのアクセスに関する調査を行った。

3-1. つながりに関する調査の内容

「縦のつながり（上司・部下）がある」「横のつながり（同期・同僚）がある」について、はい、いいえで回答してもらった。縦のつながりと横のつながりについて、つながりがない者とある者に分け比較検討した。

3-2. 仕事に関する調査の内容

「資格を十分に活かしている」「理想と現実に差を感じている」「環境（収入、時間、休日など）に不満がある」について、はい、いいえで回答してもらった。

3-3. 情報へのアクセスに関する調査の内容

「常に情報を収集している」「最新情報を入手している」「情報が有料で入手できない時がある」「情報収集は主に PC で行う」について、はい、いいえで回答してもらった。

4. 統計解析

年齢は平均値±標準偏差、それ以外の質的変数はn数(%)で示した。つながり・仕事・情報へのアクセスの年代別の比較は、コクラン-Aーミテージ検定により傾向性の検定を行った。縦または横のつながりがない者とある者の比較はフィッシャーの正確検定を用いた。縦と横のつながりの交互作用の確認は、各質問項目を目的

変数、縦のつながりおよび横のつながり、縦のつながりと横のつながりの交互作用項を説明変数、年齢を調整変数としたロジスティック回帰分析を用いた。統計解析はEZR (version 1.55, R version 4.1.2) を用い、有意水準は5%とした。

5. 倫理的配慮

本研究は名古屋学芸大学研究倫理委員会の承認の下、実施した（承認番号605）。対象者にはウェブサイト設置されたGoogle Formsの冒頭に説明書の要点および説明書を掲載した利用規約ページのリンクを挿入することで研究の説明を行い、アンケートの回答をもって同意を得たとみなした。

Ⅲ. 結果

1. 管理栄養士のつながり・仕事・情報へのアクセスの現状

管理栄養士のつながり、仕事、情報へのアクセスの現状を表1に示した。対象者全体の平均年齢は33.3±8.5歳であった。つながりに関する調査では、縦のつながりがないと答えた者は104名（38.7%）、また横のつながりがないと答えた者は113名（42.0%）であった。仕事に関する調査では、資格を活かしていないと答えた者は51名（19.0%）、理想と現実に差を感じていると答えた者は171名（63.6%）、労働環境に不満があると答えた者は135名（50.2%）であった。情報へのアクセスに関する調査では、常に情報を収集していないと答えた者は40名（14.9%）、最新情報を入手していないと答えた者は64名（23.8%）、情報が有料で入手できない時があると答えた者は206名（76.6%）、収集は主にPCで行うと答えた者は125名（46.5%）であった。

また、20～29歳、30～39歳、40歳以上の3区分に分けて比較した。仕事に関する調査において、理想と現実に差を感じていると答えた者の割合は20～29歳が71名（68.9%）、30～39歳が74名（66.7%）、40歳以上が26名（47.3%）であり、年代が上がるにつれて有意な低下傾向が見られた（ $P=0.014$ ）。また、労働環境に不満があると答えた者の割合は20～29歳が62名（60.2%）、30～

39歳が48名 (43.2%)、40歳以上が25名 (45.5%) であり、年代が上がるにつれて有意な低下傾向が見られた (P=0.035)。情報へのアクセスに関する調査では、情報が有料で入手できない時があると答えた者の割合は20~29歳が86名 (83.5%)、30~39歳が85名 (76.6%)、40歳以上が35名 (63.6%) であり、年代が上がるにつれて有意な低下傾向が見られた (P=0.006)。

2. 年代別の縦のつながりの有無による比較

年代別の縦のつながりの有無による仕事、情報へのアクセスを比較した結果を表2に示した。すべての年代で縦のつながりが無い者はある者と比較して、横のつながりもない者の割合が有意に高かった。20~29歳の縦のつながりが無い者はある者と比較して、資格を活かしていない者 (37.8% vs 9.1%, P<0.001)、理想と現実

表1 管理栄養士のつながり・仕事・情報へのアクセスの現状

	全体 n=269	年代別			P 値
		20-29 歳 n=103	30-39 歳 n=111	40 歳- n=55	
つながりに関する調査					
縦のつながりが無い	104 (38.7)	37 (35.9)	41 (36.9)	26 (47.3)	0.204
横のつながりが無い	113 (42.0)	44 (42.7)	50 (45.0)	19 (34.5)	0.423
仕事に関する調査					
資格を活かしていない	51 (19.0)	20 (19.4)	18 (16.2)	13 (23.6)	0.661
理想と現実には差を感じている	171 (63.6)	71 (68.9)	74 (66.7)	26 (47.3)	0.014
労働環境に不満がある	135 (50.2)	62 (60.2)	48 (43.2)	25 (45.5)	0.035
情報へのアクセスに関する調査					
常に情報を収集していない	40 (14.9)	19 (18.4)	17 (15.3)	4 (7.3)	0.071
最新情報を入手していない	64 (23.8)	24 (23.3)	32 (28.8)	8 (14.5)	0.379
情報が有料で入手できない時がある	206 (76.6)	86 (83.5)	85 (76.6)	35 (63.6)	0.006
情報収集は主に PC で行う	125 (46.5)	47 (45.6)	49 (44.1)	29 (52.7)	0.480

値は n (%) で示す。
年代別比較の P 値はコ克蘭-アーミテージ検定。

表2 年代別の縦のつながりの有無による仕事・情報へのアクセスの比較

	20-29 歳		P 値	30-39 歳		P 値	40 歳-		P 値
	無い	ある		無い	ある		無い	ある	
	n=37	n=66		n=41	n=70		n=26	n=29	
つながりに関する調査									
横のつながりが無い	62.2	31.8	0.004	68.3	31.4	<0.001	53.8	17.2	0.006
仕事に関する調査									
資格を活かしていない	37.8	9.1	<0.001	24.4	11.4	0.108	23.1	24.1	1.000
理想と現実には差を感じている	86.5	59.1	0.004	68.3	65.7	0.837	50.0	44.8	0.790
労働環境に不満がある	70.3	54.5	0.144	53.7	37.1	0.113	57.7	34.5	0.108
情報へのアクセスに関する調査									
常に情報を収集していない	27.0	13.6	0.114	17.1	14.3	0.787	7.7	6.9	1.000
最新情報を入手していない	29.7	19.7	0.331	34.1	25.7	0.389	15.4	13.8	1.000
情報が有料で入手できない時がある	89.2	80.3	0.283	82.9	72.9	0.255	61.5	65.5	0.786
情報収集は主に PC で行う	48.6	43.9	0.684	46.3	42.9	0.843	50.0	55.2	0.790

値は%で示す。
P 値はフィッシャーの正確検定。

に差を感じている者 (86.5% vs 59.1%, P=0.004) の割合が有意に高かった。一方、30~39歳および40歳以上において、縦のつながりの有無と有意に関連している項目は見られなかった。

3. 年代別の横のつながりの有無による比較

年代別の横のつながりの有無による仕事、情報へのアクセスの現状を比較した結果を表3に示した。すべての年代で横のつながりがない者はある者と比較して、縦のつながりもない者の割合が有意に高かった。20~29歳では横のつな

表3 年代別の横のつながりの有無による仕事・情報へのアクセスの比較

横のつながり	20-29 歳			30-39 歳			40 歳-		
	ない	ある	P 値	ない	ある	P 値	ない	ある	P 値
	n=44	n=59		n=50	n=61		n=19	n=36	
つながりに関する調査									
横のつながりがない	52.3	23.7	0.004	56.0	21.3	<0.001	73.7	33.3	0.006
仕事に関する調査									
資格を活かしていない	27.3	13.6	0.130	18.0	14.8	0.797	31.6	19.4	0.336
理想と現実には差を感じている	70.5	67.8	0.832	62.0	70.5	0.420	52.6	44.4	0.584
労働環境に不満がある	59.1	61.0	1.000	42.0	44.3	0.850	47.4	44.4	1.000
情報へのアクセスに関する調査									
常に情報を収集していない	20.5	16.9	0.798	26.0	6.6	0.007	15.8	2.8	0.114
最新情報を入手していない	25.0	22.0	0.815	40.0	19.7	0.022	21.1	11.1	0.426
情報が有料で入手できない時がある	79.5	86.4	0.425	74.0	78.7	0.654	57.9	66.7	0.566
情報収集は主に PC で行う	34.1	54.2	0.048	40.0	47.5	0.449	47.4	55.6	0.584

値は%で示す。
P 値はフィッシャーの正確検定。

表4 仕事・情報へのアクセスと縦と横のつながりの交互作用

		縦のつながりが	横のつながりが	交互作用
		ない	ない	
資格を活かしていない	オッズ比	3.12 (1.26-7.73)	1.61 (0.62-4.20)	0.66 (0.18-2.39)
	P 値	0.014	0.330	0.520
理想と現実には差を感じている	オッズ比	2.12 (0.93-4.83)	0.87 (0.44-1.74)	0.79 (0.25-2.44)
	P 値	0.074	0.700	0.680
労働環境に不満がある	オッズ比	3.59 (1.61-8.01)	0.95 (0.48-1.88)	0.46 (0.15-1.37)
	P 値	0.002	0.870	0.160
常に情報を収集していない	オッズ比	1.66 (0.53-5.23)	3.04 (1.19-7.77)	0.60 (0.14-2.59)
	P 値	0.390	0.020	0.500
最新情報を入手していない	オッズ比	0.96 (0.38-2.47)	1.57 (0.71-3.45)	1.48 (0.42-5.15)
	P 値	0.940	0.270	0.540
情報が有料で入手できない時がある	オッズ比	1.44 (0.56-3.71)	0.51 (0.24-1.08)	1.47 (0.41-5.25)
	P 値	0.450	0.079	0.560
情報収集は主に PC で行う	オッズ比	0.96 (0.46-1.98)	0.38 (0.19-0.79)	2.14 (0.73-6.27)
	P 値	0.900	0.009	0.160

値はオッズ比 (95%信頼区間) で示す。
P 値はロジスティック回帰分析 (年齢調整)。
交互作用項は縦のつながり*横のつながりをモデルに投入。

がない者はある者と比較して、情報収集は主にPCで行う者(34.1% vs 54.2%, $P=0.048$)の割合が有意に低かった。30~39歳では横のつながりがない者はある者と比較して、常に情報を収集していない者(26.0% vs 6.6%, $P=0.007$)、最新情報を入手していない者(40.0% vs 19.7%, $P=0.022$)の割合が有意に高かった。一方、40歳以上では横のつながりの有無と有意に関連している項目はなかった。

4. 縦と横のつながりの交互作用

仕事・情報へのアクセスと縦と横のつながりの交互作用を確認した結果を表4に示した。すべての質問項目で縦のつながりと横のつながりの交互作用は見られなかった。

IV. 考察

本研究では、人間関係に焦点を当て、管理栄養士の縦(上司・部下)のつながり、横(同期・同僚)のつながりと仕事や情報へのアクセスとの関連を調査した。本研究の目的に関する先行研究は乏しく不明な点が多いため、問題の解決や検証ではなく当該分野における課題抽出や問題提起を目的とした。その結果、管理栄養士の縦のつながりがないことと「資格を活かしていない」「理想と現実に差を感じている」といった仕事への不満、横のつながりがないことと「常に情報収集をしていない」「最新情報を入手していない」といった情報へのアクセスとの関連が示された。

表1に示した通り、管理栄養士において「縦のつながりがない」「横のつながりがない」で、はいと答えた者がそれぞれ38.7%、42.0%存在することが明らかになった。先行研究から勤務継続意志がある者は上司や同僚とのコミュニケーションが良好であることが報告されている⁹⁾。このように、離職に繋がる縦や横のつながりがない者が、管理栄養士の約4割に存在することは問題点として扱っていく必要があるといえる。

仕事に関する現状では「資格を活かしていない」者は19.0%であり、8割が資格を活かして

管理栄養士として活躍していることが明らかになった。また、久保田ら¹⁰⁾によると管理栄養士の仕事をする上で「資格を活かせること」を重要視している者が多かったことが報告されており、今回の研究はこのような管理栄養士の仕事観が反映されているものだと思われる結果であった。

また、「理想と現実に差を感じている」者は63.6%であった。先行研究によるとリアリティショック(組織での仕事・組織に所属することについての期待・現実感のギャップ(Schein, 1978))を受ける新人社会人は7割に及んでいと報告されている¹¹⁾。本研究の20代では「理想と現実に差を感じている」者が68.9%であり、他の職種を対象とした先行研究とほぼ同様の結果が得られた。また、年齢が上がるにつれて、「理想と現実に差を感じている」者の割合は減少傾向にあることが分かった。これは、経験を積むことにより理想に現実が近づいた影響によるものか、リアリティショック等により離職した者が除外された影響によるものなのか不明である。この点については、今後の課題として、詳細について検討していく必要があるといえる。

続いて「労働環境に不満がある」では、はいと答えた者が全体で50.2%存在した。先行研究では勤務継続意志がなく労働条件に不満があると答えた者は6割を超えており⁹⁾、労働環境に不満があることは勤務年数と関連することが分かっている。「理想と現実に差を感じている」と同様に「労働環境に不満がある」者の割合も年齢が上がるにつれて減少していることから、年齢とともに労働環境が改善していくのか、不満がある者は離職した結果であるのか、検討していくべき課題が示された。

情報へのアクセスに関する現状では「常に情報を収集していない」者が14.9%、「最新情報を入手していない」者は23.8%であり、低い割合であった。このことから管理栄養士は情報を相手に伝える立場として意識して情報を入手しようと努めていることが明らかになった。しかし、「情報が有料で入手できない時がある」者は76.6%存在した。情報収集に務めているのに対し、情報が有料で入手できないことは課題で

あるといえる。実際に西岡ら¹²⁾の報告によると、論文の検索機能である Unpaywall と Scopus に収録されている日本の著者による雑誌論文約 200 万件のうち、約 4 割がオープンアクセスであり、半数以上が有料であるといった報告もある。本研究結果が示す通り、年齢が上がるにつれて情報を入手できない者の割合は減少傾向にあることから、勤務年数が長くなることにより立場や環境が変化し、情報が得られる機会が増えるのではないかと考えられる。いずれにせよ、より詳細な調査により改善の余地を検討していく必要がある課題であるといえる。また、「情報収集は主に PC で行う」者の割合は 46.5% であり、PC 以外を情報源にする者の方が多いといった結果が得られた。これはスマートフォンとタブレット端末の普及率は上昇しているのに対し、PC の普及率は減少している¹³⁾ことが関連している可能性が考えられる。今回の調査では、PC とスマートフォンとタブレット端末を含めたネットからの情報収集に関しての設問を設けておらず、次回の調査の課題と考えている。

続いて、縦のつながりがない場合、横のつながりがない場合に分けて、年代別にそれぞれ検討を行った。表 2 に示した通り、20 歳代において縦のつながりがない者は「資格を活かしていない」割合が有意に高いが、30 代からの中堅に当たる年代では同様の結果はみられなかった。新人管理栄養士の先行研究によると業務遂行に関する思いとして「作業だけの調理になっているようで達成感がない。」という資格を活かすことのできないジレンマを抱えていることが報告されている¹⁴⁾。看護師の先行研究では仕事の行き詰まりの理由として「看護が業務として流される」と答えている者が 6 割いると報告されている¹⁵⁾。このように、経験の少ない管理栄養士では業務に追われてやりがいを感じにくいことから資格を十分に活かしていないと感じているのではないかと考えられる。また、指導者に関する思いとして「最初からいろいろ任されて、もう少しステップアップしてやらせてくれたらよかった」という声も報告されている¹⁴⁾。良好な縦のつながりがあれば、仕事環境は改善し、

より資格を活かすことでやりがいを得ることができのではないかと推測される。また、「理想と現実に差を感じている」についても 20 代で有意に高い割合であった。小川ら¹⁶⁾は、リアリティショックは上司への信頼感を低下させると報告している。このように、特に 20 代では縦のつながりを強化し信頼感を高めていくことで、理想と現実の差を狭めていく必要があると考えられる。また、縦のつながりがない者は「労働環境に不満がある」において有意な差は見られないものの、全年代とも高い傾向が見られた ($P=0.108\sim 0.144$)。堀川¹⁷⁾によると、病院における管理栄養士の平均的な配置人数は 1 人であることが報告されている。このことから、現場によっては業務をすべて 1 人でこなす必要があり、労働環境の不満につながったのではないかと推測される。配置人数が 1 人の場合、当然縦のつながりは生まれず、先述した「資格を活かしていない」「理想と現実に差を感じている」に関連することが考えられるため、すべての年代でこの現状は課題であると言える。

一方、表 3 に示す通り、30 代において横のつながりがない者は「常に情報を収集していない」「最新情報を入手していない」という項目で有意に高い結果であった。渡邊ら⁵⁾の研究でも学習意欲は周囲の影響を受けることが分かっている。同期・同僚間といった横つながりがなく周囲からの影響を受けないことで、仕事に対するモチベーションが上らず情報収集を怠っていることが背景にあるのではないかと考えられる。また、管理栄養士と他の医療職の間において知識不足がコミュニケーションの障害になると報告されている¹⁸⁾。横のつながりの希薄化は情報収集の妨げとなり、その結果、知識が不足することで更なるつながりの低下といった負の連鎖が起きてしまう可能性があり、大きな問題であるといえる。この結果は、業務の中心を担う 30 代における特徴であったことから、この年代において切磋琢磨しあえる同僚や同僚の存在、コミュニケーションが特に必要であると考えられる。また、20 代において横のつながりがない者は「情報収集は主に PC で行う」という項目で有意に低い結果が示された。この結果か

ら、スマートフォンなどの普及による影響も考えられるが、勤務中に調べる時間がなかったり、業務を覚えることで精一杯になったり、情報収集をできない状況であるのではないかと推測される。以上のように、横のつながりがいない者は年代ごとに異なる情報へのアクセスに関する課題を抱えているということが明らかになった。

縦のつながりと横のつながりの関係について表2、表3を見ると、すべての年代で縦のつながりがいない者は横のつながりもなく、その逆も同様であった。そこで仕事、情報へのアクセスと縦と横のつながりの交互作用がないか表4の通り確認を行った。その結果、各質問項目において縦と横のつながりの交互作用は認められなかったことから、それぞれが独立して関係していることが明らかになった。なぜ、縦のつながりは情報へのアクセスと関連しないのか、また横のつながりは仕事と関連しないのかは明らかにできなかったが、本研究で明らかになった課題・問題点は、どちらか一方に注目するのではなく共に考慮していく必要があると考える。

本研究にはいくつかの限界がある。まず、対象者の選択バイアスが挙げられる。Web調査を用いたため、情報アクセスの多い集団であるというバイアスが否定できない。また、Web調査を食品の画像素材を提供するサイトである「食品画像のそざい屋さん」上に設置したことから、その利用者に限定されており、食品の画像を必要とする者、あるいは普段からネットからの情報収集に慣れている者といったバイアスが生じている。同様に、調査の協力を同サイトのTwitterアカウントから告知していることも考慮する必要がある。令和3年度のTwitterの利用率は20代で78.6%、30代で57.9%、40代で44.8%となっており¹⁹⁾、今回の対象とした年代においては広く普及しているといえる。そのためTwitterそのもののバイアスは先のバイアスと比べて大きくないと考えるが、Twitterアカウントから告知内容はすべてのユーザーに届くわけではなく、一部のみにしか伝わらないため、この点に関しても「食品画像のそざい屋さん」に関心のある者に限定されるといえる。ま

た、Web調査の回答は任意であるため、調査に協力的な者に限定されているともいえる。また、Web調査のため、設問数を少数に絞った。そのため詳細な項目まで調査できていない点や横断的調査であるため因果関係が不明である点も限界であるといえる。以上から、結果の一般化は慎重に行うべきであり、問題の解決や検証ではなく、当該分野における課題抽出や問題提起として結果を活用していくべきであると考え

V. 結論

本研究により20歳代の管理栄養士において、縦のつながりがいないことと「資格を活かしていない」「理想と現実に差を感じている」といった仕事への不満、30歳代において横のつながりがいないことと「常に情報収集をしていない」「最新情報を入手していない」といった情報へのアクセスとの関連が示された。本研究で示された管理栄養士の縦または横のつながりに関する課題について、今後詳細を明らかにすることで仕事や情報へのアクセスを改善できることが期待される。

謝辞

本研究にあたり、ご協力していただきました「食品画像のそざい屋さん」利用者の皆様、名古屋学芸大学管理栄養学部栄養疫学研究室の研究生の皆様に厚く御礼申し上げます。

利益相反

本研究において利益相反に相当する事項はない。

参考文献

- 1) 竹谷豊, 塚原丘美, 桑波田雅士, 阪上浩. 新・臨床栄養学. 株式会社講談社, 2019: 7.
- 2) 町田和恵, 大見奈緒子, 花木秀子, 油田幸子, 東博文. 教育介入による学生の専門職における管理栄

- 養士・栄養士の職業観への影響. 鹿児島県立短期大学紀要, 2010; 6: 54.
- 3) 田中明子, 三瀬敬治, 米代武司, 中川幸恵. 病院栄養士の職務満足度に影響を与える要因. 日建医誌, 2019; 28: 343.
 - 4) 三島三代子, 吾郷美奈恵, 石橋 照子, 梶谷みゆき. 病院に勤務する看護職の職業継続の実態と影響要因. 島根県立大学短期大学部出雲キャンパス 研究紀要, 2011; 5: 44.
 - 5) 渡邊里香, 荒木田美香子, 鈴木純恵. 若手看護師の離職意向に関連する個人要因と組織要因の検討. 日本看護科学会誌, 2010: 56-61.
 - 6) 唐澤由美子, 中村恵, 原田慶子, 太田規子, 大脇百合子, 千葉真弓. 就職後1ヶ月と3ヶ月に新人看護師が感じる職務上の困難と欲しい支援. 長野県看護大学紀要, 2008: 83-84.
 - 7) 佐藤健司. 日本企業における人間関係:メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用の視点から. 同志社商学, 2021, 72: 84.
 - 8) 御厩美登里. 訪問看護師の職務継続意向に関連する要因. 日本地域看護学会誌, 2014, 37.
 - 9) 峯岸夕紀子, 志渡晃一. 北海道S市とその近郊における病院・社会福祉施設に勤務する栄養士・管理栄養士の勤務継続意志とその関連要因. 栄養学雑誌, 2010; 68: 57.
 - 10) 久保田のぞみ, 高野良子, 黒河あおい. 管理栄養士養成課程卒業生の大学生活と就職動向. 地域と住民: コミュニティケア教育研究センター年報, 2017; 1: 8.
 - 11) パーソル総合研究所. 就職活動と入社後の実態に関する定量調査. <https://rc.persol-group.co.jp/thinktank/data/reality-shock.html>. (2022/11/18 アクセス).
 - 12) 西岡千文, 佐藤翔. Unpaywallを利用した日本におけるオープンアクセス状況の調査. 情報知識学会誌, 2021; 31: 38.
 - 13) 総務省. 「通信利用動向調査」. 2021.
 - 14) 池島千恵子, 古屋美知, 森岡美帆. 新人栄養士の業務遂行の思いに関する質的研究. 日健教誌, 2015: 137.
 - 15) 真壁幸子, 木下香織, 古城幸子. 職業経験5年以内の看護師の早期離職願望と仕事への行き詰まり感. 新見公立短期大学紀要, 2006; 27: 83.
 - 16) 小川憲彦. リアリティ・ショックが若年者の就業意識に及ぼす影響. 経営行動科学, 2005; 18: 37.
 - 17) 堀川千嘉. 生活習慣病患者への栄養指導実施可能性から見た、一般診療所における管理栄養士配置状況の現状と課題. 人間生活学研究, 2022: 30.
 - 18) 水元芳, 徳永亜紀子, 片桐義範, 樋口善之, 渡辺啓子. 病院に勤務する管理栄養士と職務満足度とその関連要因に関する研究. 栄養学雑誌, 2015; 73: 176.
 - 19) 令和3年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書.

Abstract

Comparison of interpersonal relationships and access to information or work-related factors among dietitians

Eiji Matsushita¹⁾

Aim

Building interpersonal relationships is important for dietitians who engage in inter-professional work. However, it has been reported that many students experience challenges in interpersonal relationships when they enter dietitian training school, and these problems further increase after they enter the workforce. Since interpersonal relationships are related to job satisfaction after employment, this study focused on interpersonal relationships by investigating the relationship between vertical and horizontal connections and “access to information” or “work-related factors”, and aimed to clarify the challenges faced by dietitians.

Methods

The subjects were 269 dietitians who use “SOZAIYA-SAN”, a website for downloading images of food, and an online survey was conducted using Google Forms. Age, interpersonal relationships (vertical or horizontal), work-related factors (“not making use of my qualifications”, “there is a gap between my ideal and actual job”, and “dissatisfaction with the work environment”), and access to information were surveyed. Subjects with and without vertical or horizontal relationships were compared.

Results

Among the subjects, 38.7% had no vertical relationships and 42.0% had no horizontal relationships. Subjects in their 20s with no vertical relationships had significantly higher ratios of “not making use of my qualifications” (37.8% vs 9.1%, $P<0.001$) and “there is a gap between my ideal and actual job” (86.5% vs 59.1%, $P=0.004$). Subjects in their 30s with no horizontal relationships had significantly higher ratios of “not collecting information” (26.0% vs 6.6%, $P=0.007$) and “not keeping up to date” (40.0% vs 19.7%, $P=0.022$).

Conclusion

The present results suggest vertical relationships were associated with work-related factors among dietitians in their 20s, and horizontal relationships were associated with access to information among dietitians in their 30s.

Keywords: Dietitian, Interpersonal relationships, Work-related factors, Access to information

1) Graduate School of Nutritional Sciences, Nagoya University of Arts and Sciences